

ボビー・マクファーリン (Bobby McFerrin)

— 声の魔術師・指揮者 —

高田 涼子

ピアノは「楽器の王様」といわれますが、声だけで全てのパートを演奏できる人は数少ないと思います。日本でもボイスパーカッションが流行っていますが、マクファーリンは20年以上前に超越技巧を披露し、別名「声の魔術師」と呼ばれています。

指揮+うた

みなさんは、バッハの《平均律》第1巻第1番のプレリュードBWV.846を、全ての音をはずさずに歌えるでしょうか？なんと彼はそれを実演しています。バッハ=グノーの《アヴェ・マリア》で、バッハのパートを彼が指揮をしながらソロで歌い、グノーのパートの聴衆との大合唱で、絶妙なハーモニーを紡ぎだしています。ジャック・ルーシエ・トリオとのBWV.140の主題によるインプロヴィゼーションも見応えあり。

『スウィング・バッハ』請求記号●VE540

また、チェリストのヨーヨー・マのドキュメンタリー番組『タングルウッドの思い出』請求記号●VD3217では、ベートーヴェン《交響曲第7番》の第2楽章について議論を交わし、振りながら歌っています。他にも「ヴォイス協奏曲」が聴けるCDがあります。

『ペーパー・ミュージック』請求記号●XD33069

Don't worry, be happy

彼の名前を聞いたことがなくても、映画「カクテル」の主題歌《Don't worry, be happy》は、一度は耳にしたことがあるのではないのでしょうか。ヴォーカルだけでなく、ベースやパーカッション等も一人で多重録音をして、1988年にはグラミー賞3冠を達成しました。『Do you really want to hurt me』請求記号●XD31724

ちなみに、このタイトルはインドの宗教家メハー・ババがよく用いた言葉として知られています。

インプロヴィゼーション

私が初めて彼を意識して観たのは、『シリーズ楽器 そのルーツと魅力をさぐる (人の声)』請求記号●VB1158*でした。このビデオの中で「あらゆる楽器の標本ではないか」と評されています。幅広い音域であらゆる声質で歌い、また、口だけでなく手や身体を叩いたりして様々な音を奏でていました。一体この人は何者?!と興味を持ち調べてみたところ、前述の有名な曲を自作自演した人だと判明したのです。

彼の即興演奏は素晴らしく、チック・コリアとのデュエットは見事！NYのブルーノートで、チック還暦祝いの演奏、会場と一体感となる《スマイル》は必見です。『Rendezvous in New York』請求記号●VE554-562

モーツァルトのインプロヴィゼーションを、チックと共演しているCDもあります。

『プレイ・アマデウス』請求記号●XD36592

多才多才

彼の音楽表現は、知れば知るほど感動の連続でした。マクファーリンは、器乐的唱法を特徴とするジャズシンガーですが、大学卒業後はピアニストとしてデビューしていました。そして、現在は指揮者としても活躍しています。40歳でジュリアード音楽院に入り、指揮の勉強をしました。音楽への興味は、オペラ歌手の父親を持つ影響があるのかもしれませんが。今までに、新日本フィルハーモニー交響楽団、全米やヨーロッパの主要オーケストラを指揮しています。

※OPACでは探せません。AV資料室にあるバインダーでご確認ください。

●たかだりょうこ「わんわん物語」の《シャム猫の歌》も歌っていますよ。『マッド・アバウト・マウス』請求記号●VD1037